

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(10) 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本 (海老名市上今泉)

標本番号 KPM-NP 13

標本名 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.65 m, 高さ 1.5 m

重量 5.5 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県海老名市上今泉

緯度・経度 N35°28'13", E139°23'46"

標高 28 m

露頭の種別と現状 造成地の人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 ほぼ南北、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ、火砕流堆積物 (陸成層)

年代 660 ± 5.5 ka (箱根東京テフラ, 青木ほか, 2008)

採集作業 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会者 今永 勇

採集日 1992 年 10 月 23 日

関連文献等

笠間友博・山下浩之 (2005) 高森丘陵南西部で出現した特徴的な箱根新期軽石流堆積物 [Hk-T(pfl)] について～高森丘陵と多摩丘陵で発見されたスコリアを含む成層堆積物の共通層序～. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (34): 1-16.

解説 神奈川県海老名市の河成段丘の段丘崖で採取された標本である。火山灰土層に含まれるテフラは下位より箱根三浦テフラ [Hk-MP] (三浦軽石)、箱根東京テフラ [Hk-TP] (東京軽石) およびその軽石流堆積物 Hk-T(pfl) である。箱根三浦テフラは波状にうねり、下方へ脈状に貫入している部分がある。降下ユニットも不明瞭で、下位の降下軽石ユニットとその上に重なる火山砂を中心とするユニットが混合したような岩相を呈している。なお最上部の火山灰層からなる降下ユニットは見られなかった。箱根東京テフラは降下ユニットが明瞭である。スケッチは笠間・山下 (2005) に従って区分した。最下位に存在する火山灰層は中央やや左に部分的に保存されている。また、TP5 とした降下ユニットの途中から上が侵食により欠落している。これは軽石流堆積物起源の泥流によるものとみられる。ただし、この 2 次堆積物中には笠間・山下 (2005) が成層軽石流堆積物とした堆積物の ST(c) に相当すると考えられる部分がブロック状に含まれている。なお、箱根東京テフラには、液状化によって生じたと考えられる軽石起源の充填物からなる脈がある。

記録者 笠間友博



図 1a-10-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 1a-10-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。



図 1a-10-3. 剥ぎ取り標本の写真 (板貼り付け前)。

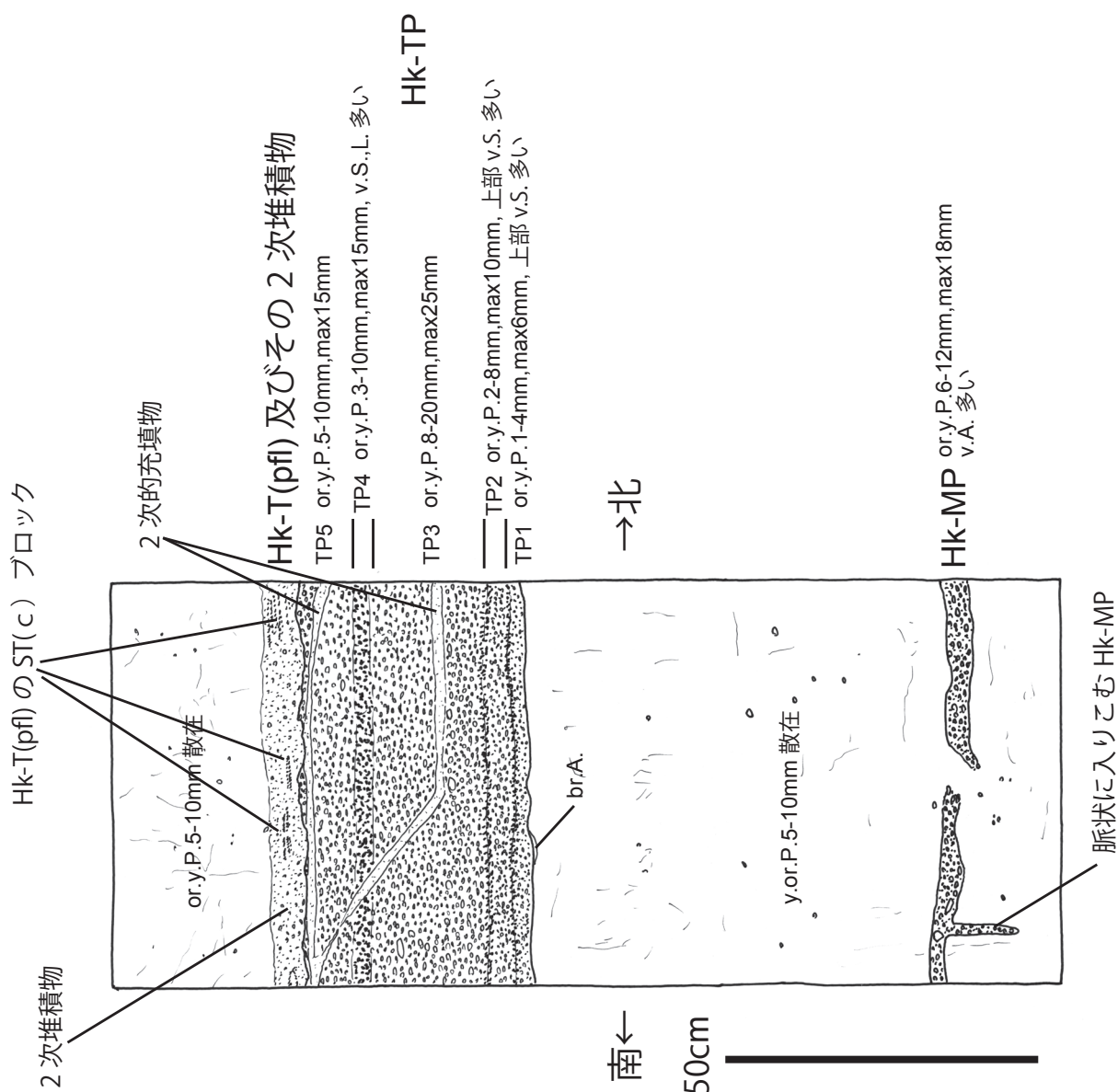


図 1a-10-4. 剥ぎ取り標本 (板貼り付け後) の写真 (左) とスケッチ (右, 笠間原図).

